The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	モンゴル秘史を読む会、その後
Author(s)	内田, 敦之
Citation	モンゴル研究. 2023, 32, p. 21-30
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102398
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

《研究ノート》

モンゴル秘史を読む会、その後

内田　敦之

2023年10月21日で、「読む会」は4年目に入った。スタートした頃には10人ほどの参加者があったが、最近は5～6人で定着している。常連は、ホルチン・モンゴル人が3人、ハルハ・モンゴル人が1人、あとは歴史学、文化人類学、言語学を専門とする日本人である。一方で、フェイスブックに開設した「モンゴル秘史を読む会」（URL https://www.facebook.com/groups/378355040047786）グループには320人余りが登録している（12月1日現在）。

毎回のテキスト（レジュメ）は53節まで内田が準備していたが、54節からは参加者の輪番制にした。内田が担当する時のレジュメは、モンゴル文字を Bayar “Mongγul-un Niγuča Tobčiyan” の現代モンゴル文字転写をベースに、小沢重男『元朝秘史全釈』のラテン文字転写を参考にしながらモンゴル文字のテキストとし、可能な限りモンゴル文字テキストをそのままキリル文字に転写、さらに小沢重男『全釈』、村上正二『モンゴル秘史』などの翻訳を参考にしながら日本語訳を付けている。

読む会は、参加者がテキストを読み、疑問点や着目点、それに対するコメントなど自由に発言しながら進んでいく。①疑問に思って調べたこと、②他の参加者の疑問点やコメントをまとめ、その一部は「読む会ノート」として内田が A4 で1枚にまとめている。

この研究ノートでは、上記「読む会ノート」の一部を紹介しながら読む会の雰囲気をお伝えしたい。秘史研究は歴史も長く、数・量ともに膨大であるが、私たちには、小沢や村上ら先達以後の成果を活用できる利点がある。それらを活用しつつ、今後も800年後の現代に生きるモンゴル人たちと楽しく、秘史の世界に浸っていきたい。

第64節から

Хацар гуа охидыг

Хаан болсноо(болсонд) таны(та нарын)

Хасаг тэргэнд унуулж

Хар буур хөлгөж

Хатируулж одож ...

（1）Хацар гуа охид（頬麗しき乙女ら）

現代モンゴル語の辞書にはこの表現は見出せない。美女を表す古い表現かも知れない。

辞書の説明では「顔の両側」となっていることから、顔の左右部分の均整がとれた顔を「美しい」と言っているのではないか。モンゴル人は一般的に調和がとれたものを「美しい」とみなすからで

ある（日本人参加者）。あるいは、屋外で労働をして日焼けして赤くなっていない頬を「綺麗」と表現したものか（日本人）。

（2）хар буур хөлгөж

「黒い種ラクダに車をつなぐ」というフレーズを見た時、獰猛な種ラクダに車をつないできちんと目的地までたどり着けるのだろうかと疑問に思った。これについて「種ラクダも発情期でなければ大人しい」との発言があった（日本人）。その一方、種馬の場合は、群れでの地位から引きはがすような行為（群から離して車につなぐなど）は受入れないで暴れるのではないか（日本人）。

これまで「黒ラクダ」というのは聞いたことがなかったが、小沢、村上、岩村らはみな「黒ラクダ」と翻訳している。傍訳も「黒駱駝」となっている。ソロンガは「ハラ・テメーとは全身が黒で、遠くから首と膝の毛が黒く見えるラクダを指す」と説明している。

「黒ラクダ」をネット検索すると、中東には「黒ラクダ」もいるようだ。

https://twitter.com/bino_zum/status/1176437441470681088

https://hanamomoac.exblog.jp/10058659/（12月1日閲覧）

その一方で、“хар салхи”（非常に強い風、暴風）の例のごとく、この qar-a は「黒色」ではなく「力が強い」ラクダのことを言ったのではないだろうかとの意見が出た（日本人、モンゴル人）。

第65節から

Нуун хүүд(хөвүүд) ману

Нунтаг харъюу

Охин хүүн(хөвүүн) ману

Өнгө үзэгдьюү

Нуган хүүхэд

Нутгаа эзэмшинэ

Охин хүүхэд

Өнгө шилэгдэнэ

（Дамдинсүрэн　現代語訳）

Нуун хүүхэд

Нутаг усаа харж суудаг

Охин хүүхэд

Өнгө зүсээрээ харьд очдог

（Элдэнтай　現代語訳）

хөвүүн

キリル文字のテキストでこの語を使っているものもあるが、実は秘史には文語の köbegün に当たる形は一例も見られない。秘史では хүү（文語形 keü）に当たる köün のみが見られる（小沢、1984～89）。

現代ハルハ・モンゴル語では「男児」を表すが、学校で集団的に「男子生徒」（ангийн хөвүүд）を表す以外はあまり使われない（モンゴル人）。хүү よりも尊敬のニュアンスがあるのではないか（モンゴル人）。「男児」のみの意味を載せている辞典（小沢、Цэвэл、Lessing、新蒙漢、蒙古語辞典など）と、「子供」の意味も併記している辞典（Академи、蒙漢詞典など）がある。Цэвэл には「ボリヤド方言で多用される」という解説もある。

第74節より

Өэлүн үжин эм мэргэн төрж ...

（1）мэргэн という語は Дамдинсүрэн が Оюунтай と現代語訳しているように現代モンゴル語の辞書（Цэвэл, 蒙古語辞典 , Академи など）には「賢明、利口、巧み、聡明、理知的」と共に「弓射に優れる」と説明されている。『二十一巻本辞典』でも「聡明・卓越した人。また、狩猟で動物を多く仕留めるのに長けた人」とある。これらの説明に触れ個人的には「文武両道」という言葉が思い浮かんだ。秘史のこの語の日本語訳は、那珂が『成吉思汗実録』で「女丈夫」としたのをはじめ、小林（1941）、岩村（1963）、村上『モンゴル秘史』（1970）、小沢（1984～89）の全てで「女丈夫」（但し「女丈夫」に加えて『実録』では「善射者」、『元朝秘史』では「弓が上手」という意味を付け加えている）となっている。「女丈夫」は「気が強くてしっかりしている女。男まさりの女。女傑」（精選版 日本国語大辞典）という意味で、мэргэн の意味とはずれているのではないか。同族に見捨てられ孤立した境遇で子供たちを立派に育て上げたホエルンはもちろん「女丈夫」に違いなかっただろう。孤軍奮闘する寡婦ホエルンのイメージに「女丈夫」という日本語がぴったり一致して歴代の研究者はこの語を選んだのかも知れない。あるいは、13世紀の мэргэн の意味は女丈夫に近かったのだろうか。現代モンゴル語の意味からみれば、必ずしも適切な翻訳だとは思えない。「女丈夫」という訳語は、数行先に出てくる Сүстэй төрсөн Үжин эх の сүстэй（肝・腹・度胸の据わった、胆力をもった）の方が適していると思う。

（2）ホエルンの人間像

本節では、ホエルンの生来の性質を表す上記 мэргэн, сүстэй 以外に зарчимтай（規律ある、厳しい、節操ある、道義・原則に基づく）という表現が出てくる。この語は内モンゴルでは人の性質には使われないようだが、モンゴル国では使われるということである（モンゴル人）。北京で出版された『新蒙漢詞典』には “зарчимтай хүн” が例として載っている。これらのことばが偉大なチンギス・ハーンを育てたモンゴルの理想の母親像の一端を示すのかも知れない。

（3）チンギス・ハーン親子を養った草原の自生植物

本節には同族に見捨てられて極貧の境遇の親子を養った多くの植物名が出てくる。以前は参

照できなかった辞典・事典を現在は資料として活用できる。動植物名は可能な限りラテン名を特定し、ネット検索を駆使して和名を特定した。和名が見つからない（または、和名がない）場合、次善策として漢名を使うこともできるだろう。өлирсөн（現代ハルハ・モンゴル語 өрөл）：Malus baccata(Linn.)Borkh シベリアリンゴ、мойлсон（同 мойл, монос）：Padus Mill., Padus asiatica Kom. ウワミズザクラ、ハハカなど、сүдүн（同 сөд）：Sanguisorba officinalis L. ワレモコウ、чичгэнэ（同 гичгэнэ）：Potentilla anserina L. キジムシロ、オカグルマ（？）、халиарсан（同 халиар）：Allium victorialis L ギョウジャニンニク、мангирсан（同 мангир）：Allium senescens L. セッカヤマネギ、жагугасан（同 затгас?）：ヒメユリ（ベニユリ、イトハユリ、ホソハユリ）の根。また、第75節には гогосон（同 гогод）：Allium odorum, A.leucocephalum, A.lineare 和名不明、漢名「野韭、韮菜」、英名 “Wild leek”（野生ポロネギ、野生リーキ）が出てくる。ほかに上記の植物を掘り返すのに使った棒の材質として чөөрсөн（同 цөөрс）：杉という語も見られる。

第75節より

...Гаулуга хүүд хойлагуд сайд болов.

...Хуулгат（хорчгор туранхай）хөвүүд Хутагтай сайд болов（Чоймаа）

...хорчгор туранхай хөвүүд хутагтан сайд болов（Сонгомол эх）

（1）гаулуга

ダウール・モンゴル語に gaulu-~gaula-（子供が親に色々なことをねだる、色々と欲しがる）という動詞があり、これに出動実詞形成接辞が付いた形と見て、「いたずらなる」と訳している（小沢）。一方、参加者からはモンゴル文字の綴りは異なるが、現在「スマートな」という意味で用いられる гоолиг（モンゴル文字 γuwaliγ）がかつては「痩せ（こけ）た」という意味で用いられた語ではないかという意見が出た（モンゴル人）。

（2）хойлагуд

ゴルロス方言の xoiloɢ（やんちゃ坊主。行動、振舞いが元気活発な子供に対してのみ用いられる）という語に当たるのではないか。ゴルロス方言で用いられる xoiloɢ は、現代ハルハ・モンゴル語の хойлог（セッケイ）の《転意》である（小沢）。ホルチン方言で хойлог には、“шилжсэн Хашир, догь, хэрсүү《転意》経験豊かな、用心深い、慎重 ” などの意味がある（Монгол Хэлний Их Тайлбар Толь）。

テムジン兄弟が母ホエルンのために釣った魚

（1）эрэмдэг зэмдэг загас

この部分の訳は「片（偏）目・不具の魚」（那珂、小林、村上）とされてきたが、小沢は эрэмдэг зэмдэг の意味から派生した「名もなく、どうでもよい、色々の魚＝雑魚」の意味にとっている。一方、参加者からは、釣り道具が子供の作った簡単なものだったため普通の元気の良い魚は釣れず、少

し弱った魚しか釣ることができなかったのではないかと、小沢以前の訳を支持する意見が出た。

（2）зэвэг は、Brachymystax（コクチマス、マンシュウマス）。хадар は、Coregonus（シロマス）とある。ただし、『蒙漢詞典』『新蒙漢詞典』には「鯵（アジ）」という訳も見られる。鯵は海の魚であり、海のないモンゴルの魚にこの訳は当たらないのではと考えたが、「（前略）幼魚期には汽水域や淡水域に入るものもいる」（Wikipedia）との記述もあり、完全に否定はできないかも知れない。モンゴル国にも釣りキチは多数いるようだが、日常生活では日本のように多種多様な魚を消費する習慣がないので、魚名の特定は一般的に難しい。

第76節より

（1）гэгээн согосон

魚が光る理由を小沢は「鱗がきらきら光るから」とした。これを「（仏教の）化身」の意味にとって「聖なるソゴスン」と解釈し、一体どんな魚かと想像した（モンゴル人）。また、同語の文語形を小沢は “gegegen” としている。Цэвэл には “gegen~gegegen”、Lessing には「明るい」の意味では “gegen(gegegen)” とあるが、「化身」の方には “gegegen” のみが載っていて辞書により違いがある。一方、内モンゴルの『蒙古語辞典』や『蒙漢』では “gegen” に統一されている。

（2）sogosun という魚

テムジンとハサルが母ホエルンのために釣り上げたものの、異母兄弟のベクテル、ベルグテイに奪い取られた魚名である。この魚が何だったのか、調べれば調べるほどたくさんの魚名が出てきて混乱この上ない。小沢は『元朝秘史注釈（中）』で、ダウール・モンゴル語 suagas という「雅罗魚、小白魚」という意味を表す語があるとオノン・ウルグンゲのことばを引用、「雅罗魚」は「キタノウグイ」であるとしている。また、ハルハ・モンゴル語に согоц という海水魚を表す語があるが、同魚は「алтан хацар と似る」と Цэвэл の説明を引用し、この алтан хацар は淡水魚の「千罗魚」（ハヤ、ウグイ）であるという。また、満洲文語の sohoco（オイカワ）も参考になると言及している。那珂、小林、岩村、村上訳では和名を特定できなかったのだろう、いずれも「ソゴスン」としている。『蒙漢詞典』には soγusu（吹沙小魚）と soγuču（鮅）が採録されている。「吹沙小魚」はコイ科カマツカ属の「スナフキ（またはカマツカ）」、「鮅」は『新漢語林』によると「マス」またはコイ科の「オキシウオ」である。Д.Цэрэнсодном は “Moŋγul-un Niγuča Tobčiyan-u orčiγulγ-a tayilburi”（モンゴル文字版）で、「алгана 目に属する」と解説し、同魚は Ch.Bawden “Mongolian-English Dictionary” によると、学名を “Perca fluviatilis” とし、これはスズキ目の「ヨーロピアンパーチ」で、海水魚である。『蒙文分類辞典』には “alγan-a soγusu（石鰊魚）” が採録されているが、「石鰊」も鰊（ニシン）の一種だとすれば、これも海水魚である。Ардажав は『新译集注《蒙古秘史》』で、この魚はダウール・モンゴル語の süagas（小白魚）üsags（黄古魚）と説明している。「小白魚」は「百科」によるとコイ科 Culter alburnusBasilewsky（ソウギョ）とあり、生薬原料として利尿作用や浮腫みをとるとされる。「黄古魚」の方は「市場魚貝類図鑑」には「黄姑魚」とあり、Nibea albiflora（コイチ）で海水魚である。

＜結論＞ sogosun について諸資料には淡水魚と海水魚両方の魚名が挙がっている。淡水魚としては、ウグイ、ハヤ、オイカワ、スナフキ（カマツカ）、オシキウオ、ニゴイ、ソウギョなどが挙げられるが、いずれもコイ科の魚である。一方、海水魚としては、スズキ目（ハゼ、ヨーロピアンパーチ、コイチ、サワラ、イカナゴ）、キュウリウオ目（シラウオ）、ガンギエイ目（ガンギエイ）など幅広い。モンゴル名と学名対照の魚類辞典の入手が必至である。

第79節より

Холугад гоожижуу, шилүгэд шибэрижүү.

（傍訳）悪的毎退翎　涎収不的

（総訳）如今莫不似飛禽的雛児般。毛羽長了。走獣的羔児般大了。

この部分を含む本節はなかなか読み応えがあり、読む会でも３回に渡って議論した。中でもこの文章は難解である。

モンゴル人研究者の主な解釈は以下の通りである。

Хулхи гоожжухуй, Шүлс шивэрчүхүй（Чоймаа）

Хулхи нь гуужиж, Шүлс нь сэвэрчихлээ（Сонгомол эх）

Хурганы үс гуужив, төлөгний биє төлжив（一才羊の毛が生え変わって、三才羊の体が）（Дамдинсүрэн）

Хулхи нь хатаж, шүлс нь татарчээ（Пүрэвдорж）

Хулга хулухад гоожиж, шүлс шилүгэд сэвэрчихлээ（Цэрэнсодном）

Нисэх шувууны дэгдээхий мэт, жигүүр өд өсчүхүй. Гөрөөсний зулзага мэт шүдэн хумсан ургажухуй（Цэнд гүн）

Үс бойжиж, нус нулимсаа цэвэрлэх чадал тэнхээтэй болов（毛が生えて、鼻水や涙をぬぐうことができるようになった）Eldengtai

Өдөөн гуужуулж шүлсээн сайруулахаан зогссон байх

日本人研究者の解釈も千差万別である。

雛どもの翎伸びけん、羔ども生立ちけん（那珂）

雛が翎伸び、二才の羊が大きくなった様に成人した（小林）

野かけ [の雛ども] が幼羽を脱ぎ落したぞ、涎たらし [の小羊ども] が大人となったぞ（村上）

耳垂れ流れ落ちたり、涎垂らしどもの涎とまれり（小沢1985）

子羊どもが脱毛せり、涎垂らしどもの涎とまれり（小沢1992）

様々な資料を参照しつつ個人的には小沢『全釈』寄りの “Хулгад гоожжээ, шүлхийд сэвэржээ（耳垢が流れ出て涎も涸れて、テムジンは成長した）と自分なりに結論づけていたが、違和感は残っていた。その後、Лувсандорж の Гулгиа юмнууд гуужив, Шүлхий юмнууд сэврэв という解

釈に納得し、現時点ではこれを支持している。Лувсандорж は子供を悪く言うニュアンスのことばに гулгиа、шүлхий、нусгай、орцлоо、чарлаа などが使われるが、хулхи（хулга）ということばは使われることがない。子供の耳を耳垢が塞ぐということもない。qoluγad というのは現在の гулгиа の古い複数形である。гулгиа は病気ではなく、どんな子供にもあることである。タイチョードの貴族は気に入らない子供らに対して гулгиа、шүлхий ということばで呼んで蔑んだのである。（Лувсандорж）

（3）Сүүдрээс бус нөхөргүй, сүүлээс бус чичуа（чичуа? чүчигэ?）-гүй буй бид
　影より外に伴なく、尾より外に鞭なし（私たちには）。

秘史の有名な言い回しの一つである。чичуа は多くの資料で「鞭」と解釈され、ташуур と現代語訳されている語であるが、小沢や Ardajab らはチュルク語 чычык と同源の語であるとして「羊の尾の脂肪のある部分」とし、後段を「尾より他の食（脂）なきなり」と訳し、「前段で人的側面の孤立無援の状態を、後段で家畜的側面の皆無の状態を表現している」としている。その一方で、Цэрэнсодном は鞭説を主張、「仲間がなく武器もない空っぽの状態を表現しており、この語は чичих, хатгах, цохих などの派生語であり、ташуур の同義語である」としている。『オルドス口碑集』には「尾の他には房もない」という言い回しが採録されており、「房 jačuk の部分は元々は čiču'a だった」との説明がある。

内モンゴルのモンゴル語（「内モンゴル語」ではない）について（読む会で出た話題から）

（1）" Жинхэнэ " монгол хэл

モンゴル国出身の参加者から「内モンゴルのモンゴル語は、モンゴル文字に裏付けられた “Жинхэнэ монгол хэл” だ」という発言が出たことがあり、少し嬉しかった。私はフフホトの内モンゴル大学から帰国した1980年代半ばからウランバートルに赴任した1990年代半ばまでの約10年間、指導を受けたチャハル・モンゴル人の先生の発音の影響を受け、チャハル方言（厳密にはチャハル方言を土台にした内モンゴル標準音）を話していた。そのため、ウランバートルに赴任した当初、“Жинхэнэ монголоор ярь” “Төв халхаар ярь” と何度も言われた経験があったからである。南北モンゴルの関係や歴史について全く無知であった私は、同胞の方言、しかもハルハ方言に最も近い中央方言であるチャハル方言を話す私を「少し変わった日本人」とハルハ・モンゴル人にも歓迎してもらえるとばかり思い込んでいた。そのため、ウランバートル赴任前には駐在中はチャハル方言で通そうと考えていたが、ウランバートルで仕事をするためモンゴル語を半年かけてハルハ化した。内モンゴルの方言を話すことでスパイ呼ばわりまでされる始末で、仕事に支障が出ると判断したからである。だいたい私のようにちょっとした嘘をついてもすぐ顔に出てしまう人間にどんなスパイ活動ができると言うのだろうか。жинхэнэ があるということは худлаа もあるということである。果たして худлаа монгол хэл というものが存在するのだろうか。жинхэнэ, худлаа というさらに分断を深める不毛なレッテル貼りはやめてはどうか。独立国家モンゴル国のモンゴル語でさえ「乱れている」とさかんに言われる昨今である。両大国の執拗な粛清

にも今日まで命がけで残してきた世界各地で生き残るモンゴル語の素晴らしい表現や言い回しを集収・整理し、相互に学び合うことこそ今すべきことではあるまいか。

漢語の強い影響を受けた直訳調の文章、また、漢語の膨大な数の借用語に蹂躙された中国領モンゴルのモンゴル語を жинхэнэ と呼ぶには難しい側面があるかも知れない。ただ、中国による漢化、モンゴル文化撲滅政策下、モンゴル文字を命がけで守ってきたその姿勢さえも худлаа と罵倒できるのか。「世界中のモンゴル人の模範となるべき」独立国家であるモンゴル国のモンゴル人は、モンゴルの歴史・文化・社会全般を広く深く理解する必要がある。その一方で、モンゴル文字を21世紀まで死守してきた中国領モンゴルのモンゴル人はその誇りを強くもって、モンゴル語を漢語の蹂躙からしっかり守っていってもらいたい。

（2）" Цэвэр " монгол хэл

来日して間もない頃、内モンゴルのモンゴル人と知り合い、外で会うことになり、彼女が待ち合わせ場所を тос нэмэх өртөө と指定した。ところが、全てモンゴル語で構成されたこの語句がどうしても理解できない。彼女に詳しい説明をしてもらって、それが бензин түгээх станц（ガソリン・スタンド）だと言うことがやっとわかった。直訳すると「油を加える処」で、なるほどと思った。自分たちはたった3語のうち2語もロシア語を使っていることにハッと気づかされたという（ハルハ・モンゴル人）。

内モンゴルのモンゴル人がモンゴル国を訪問すると、できるだけ「チェウェル（純粋な）」モンゴル語で話そうと涙ぐましい努力をする。ザハ（食料品市場）でキャベツを買おうと “цагаан ногоо өг” と言っても、市場のおばちゃんはわかってくれない。さんざんやりとりして、おばちゃんが言ったのは байцаа（漢語の「白菜」がモンゴル語に入った借用語）だった。食堂でごはんを食べようと хоолон гэр と言ってみるが、これも通じない。オランバートルでは гуанз（漢語「館子」起源の借用語）だ。хоолон гэр もせめて хоолны гэр と言えば何とか通じるか。хонин мах（羊肉）など隠れた -н といわれる形が後の名詞をそのまま形容する使い方はモンゴル国では通じにくい。

ハルハ・モンゴル語を土台としたモンゴル国のモンゴル語は、モンゴル人にとって唯一の独立国の「国語」である。ただし、ユーラシアに広く展開するモンゴル語のごく一部であることも事実。方言間に優劣はないし、「本物」も「偽物」もない。こんなことは私のような言語学を専門とする研究者でない者がわざわざ言及するまでもないだろう。ハルハ・モンゴル語と他の方言との発音や表現の違いは「間違い」ではないのだ。

最後になりましたが、モンゴル秘史を読む会にいつも参加いただいているチョモルログさん、エルチ（賀）さん、サインホビトさん、ヒシゲーさん、都合がつく限り参加いただいている松田孝一さん、西村幹也さん、荒井幸康さん、さらに、これまで単発で参加いただいた皆さん、いつも貴重なコメントをいただき、とても感謝しています。これからもよろしくお願いいたします。

参考文献

日本語

チョクト（朝克圖）（2011）「『元朝秘史』の世界を理解するために―中国における『元朝秘史』研究の問題を中心に」吉田順一、早稲田大学モンゴル研究所『モンゴル史研究－現状と展望』明石書店。

岩村忍（1963）『元朝秘史 チンギス＝ハン実録』中央公論社。

小林高四郎（1941）『蒙古の秘史』生活社。

栗林均（2021）主な著書・論文著作・論文
http://hkuri.cneas.tohoku.ac.jp/articles/（閲覧日：12月1日）

森川哲雄（2007）「『元朝秘史』－北アジア世界における初めての年代記」『モンゴル年代記』白帝社。

村上正二（1970~76）『モンゴル秘史チンギス・カン物語』平凡社東洋文庫（全３巻）。

那珂通世（1943）『成吉思汗実録』筑摩書房。

小沢重男（1984~89）『元朝秘史全釈』（上中下）、『元朝秘史全釈続攷』（上中下） 風間書房。

小澤重男（1997）『元朝秘史』（上下）岩波書店。

ソロンガ「ラクダの個体識別に関する一考察」
https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/104146/S18834744-35-P058-SOL.pdf

吉田順一（2011）「『モンゴル秘史』研究の新たな展開にむけて」吉田順一、早稲田大学モンゴル研究所『モンゴル史研究－現状と展望』明石書店。

モンゴル語・漢語

阿尔达扎布（2005）『新译集注《蒙古秘史》』内蒙古大学出版社.

Bayar (1980). Mongγul-un Niγuča Tobčiyan (蒙古秘史、上中下).Kökeqota: 内蒙古人民出版社.

Чулуун, С. нар (2022). “Цэнд гүнгийн орчуулсан Монголын Нууц Товчоон тайлбарт эх” I, II, III. УБ.

Дамдинсүрэн,Ц. (1990). Монголын Нууц Товчоо. УБ.

Eldengtai,Oyundalai(1984). Mongγul-un Niγuča Tobčiyan-u qarγuγulun qinaγsan debter（《蒙古秘史》校勘本）.
Kökeqota: 内蒙古人民出版社.

额尔登泰 乌云达赉 阿萨拉图（1980）《蒙古秘史》词汇选释 内蒙古人民出版社 .

Гантогтох, Г.(2018). Монголой Нюуса Тобшоон УБ.

Лувсандорж,Ж.(2019). Монголын Нууц Товчоон(Ихмонгол улсын нууц түүх). УБ.

“Mongγul-un Niγuča Tobčiyan”-u songumal eke-yi bolbasuraγulqu redakci-yin
jöblel(2004).Mongγul-un Niγuča Tobčiyan.У.Б.: “Möŋke-yin üsüg” kompani.

Начин, Д. нар (2017). Цэнд гүнгийн хөрвүүлсэн Монголын Нууц Товчоо. УБ.

Өлзийхутаг, Н.(1985) “БНМАУ-ын бэлчээр хадлан дахь тэжээлийн ургамал таних бичиг” УБ.

Пүрэвдорж, Д.(2020) “Монголын нууц товчоо” УБ.

Түвшин төгс, Б.(2020) “Цэнд гүн ба Монголын Нууц Товчооны Анхны Монгол Орчуулга” УБ.

Цэрэнсодном, Д.(1993) “Монголын Нууц Товчоон”-ы орчуулга тайлбар（モンゴル文字版）民族出版社

モンゴル語辞典

Baatur, Da. “Iji üge-yin toli(類語辞典)” 内蒙古人民出版社.

Bawden, C.R.（1992）“Mongolian-English Dictionary”.

Доржготов, А. нар 1998 “Зурагт Толь” УБ.

Lessing F.D. (1960) “Mongolian-English Dictionary” University of California Press.

“Монгол Хэлний Их Тайлбар Толь” https://mongoltoli.mn/
(1978)“Moŋŋγul utq-a-yin jüil qubiyaγsan toli bičig(蒙文分類辞典)” 民族出版社.
小沢重男（1994）『現代モンゴル語辞典』大学書林。
《蒙古語辞典》編纂組（1997）《Moŋγul Kelen-ü Toli(蒙古語辞典)》内蒙古人民出版社.
Монгол Улсын Шинжлэх Ухааны Академи(2008) “Монгол Хэлний Дэлгэрэнгүй Тайлбар Толь” 5 боть. УБ.
内蒙古大学蒙古学研究院蒙古语文研究所（1999）《Moŋγul Kitad Toli（蒙汉词典）（增订本）》内蒙古大学出版社 .
Цэвэл, Я. 2013 “Монгол Хэлний Товч Тайлбар Толь” УБ.
《新蒙汉词典》編委会（1999）“ШинэМонгол- Хатад Толь” 北京 商务印书馆.
吉田順一 (監) (2015)『モンゴル遊牧文化用語辞典』ウランバートル。

秘史朗読

（ブリヤート・モンゴル語）

https://www.facebook.com/nomio.bathuyag/videos/3977568455604299

（ハルハ・モンゴル語）

https://www.youtube.com/watch?v=njCkcOYVxPM&t=17s&ab_channel=Khangaibaatar

（閲覧日：12月1日）

（うちだ　としゆき）